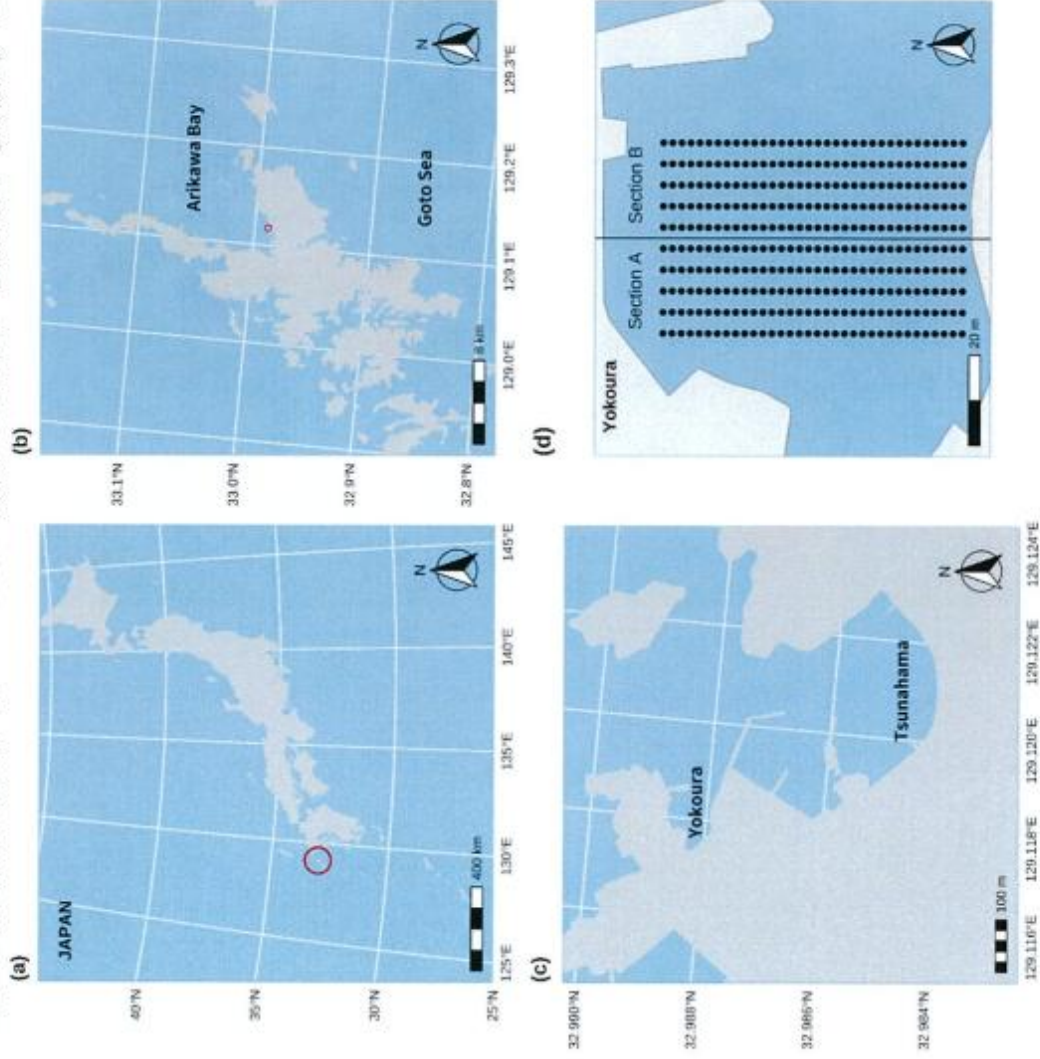
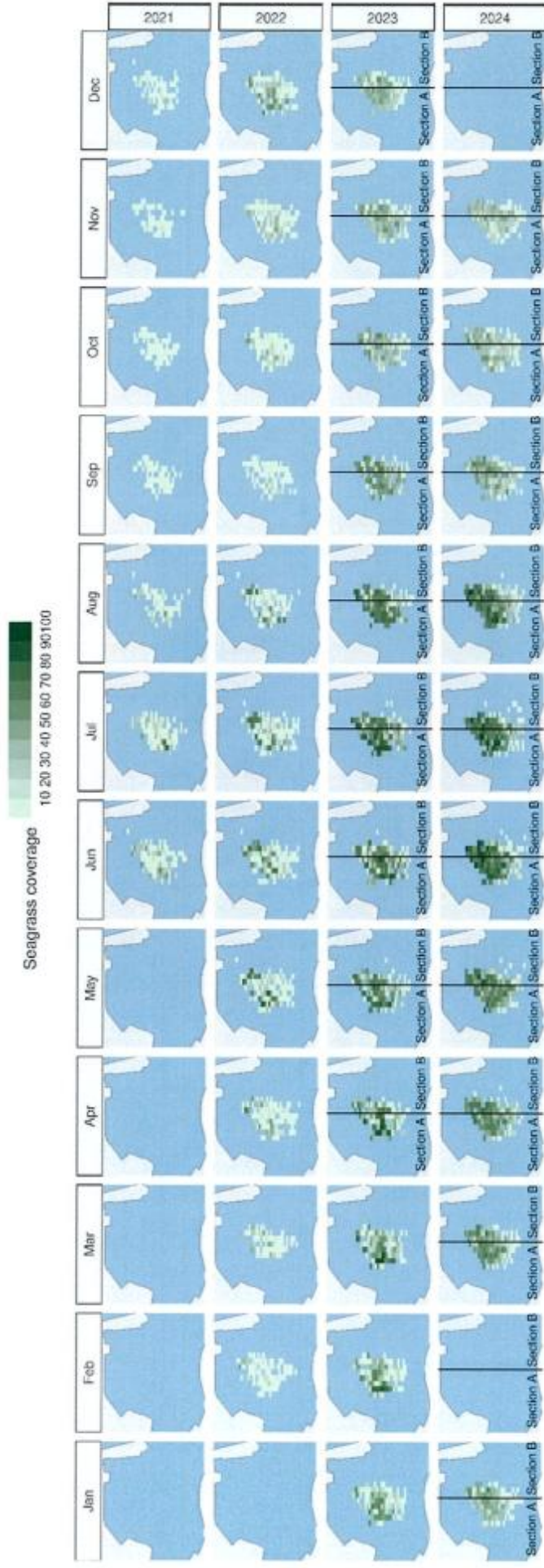


# 有川・横浦地区ベースラインCO<sub>2</sub>吸収量説明資料

「長崎大学水産学部海洋イノベーション機構による有川・横浦地区（活動区）におけるアマモ場の調査データ（論文掲載予定）」



[被度観察定点点位置図]



「横浦地区内 2021年(令和3年)6月から2024年(令和6年)11月までのアマモの繁茂状態を12段階の被度分布を色の濃度で図示した資料」

地区内に310地点でコンパクトカメラにより繁茂状態を撮影し、写真から目視で12段階に区分

2021年6月に観察と海洋ゴミの回収を開始。翌年から徐々にアマモの生育の被度が向上していることが観察される。

「2021 年（令和 3 年） 6 月 1 日 横瀬地区内における定点のアマモ被度データ」（数字は、定点における被度%）

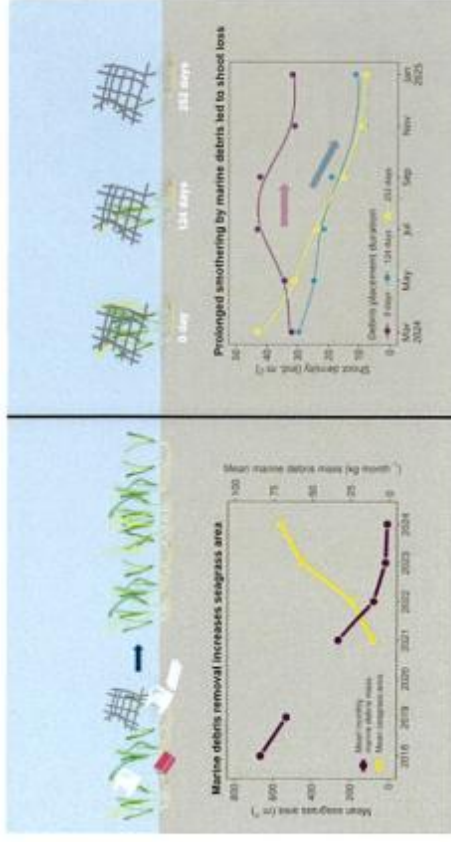
point	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	T10
100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
104	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
106	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
108	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
110	0	0	0	0	0	60	20	0	0	0
112	0	0	0	0	0	30	60	0	0	0
114	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0
116	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0
118	0	0	0	60	5	5	0	20	0	0
120	0	0	20	0	5	5	20	40	0	0
122	0	0	40	5	5	10	60	10	0	0
124	0	0	20	5	5	0	20	0	0	0
126	0	50	5	10	5	5	10	5	0	0
128	0	10	5	10	20	30	5	0	0	0
130	30	5	5	5	5	30	5	0	0	0
132	0	40	40	10	5	40	30	0	0	0
134	0	0	70	40	5	50	10	5	0	0
136	5	40	40	5	5	5	0	0	0	0
138	0	40	30	10	5	20	5	5	0	0
140	0	60	30	10	0	5	5	0	0	0
142	5	5	20	40	0	5	0	0	0	0
144	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0
146	0	0	0	5	5	5	0	0	0	0
148	0	20	0	10	5	0	0	0	0	0

150	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0
152	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0
154	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0
156	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
158	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
160	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

従って、2021年6月1日時点でのアマモ面積とそれにより算出したCO2吸収量をベースラインとした。

「横浦地区内 2021年6月1日 全地点でのCO2 吸収量の算出」

調査面積㎡	被度%	藻場面積㎡	ha	係数	吸収量
3100.00	5.451612903	169.00	0.0169	4.9	0.08281
	全地点の平均値	調査面積×被度		式1 アマモ	



「浜地区（対照区）に自生するアマモの密度変化と海洋ゴミを被せた場合の被度変化を観測した結果」

海洋ゴミの回収をしない定点では観察開始の2024年3月での密度〔約30本/㎡〕は、季節変動はあるものの向上は見られない。また、海洋ゴミを被せた定点では、被せている日数が長い程、密度の低下が顕著となっている。したがって、海洋ゴミがアマモの生育を阻害することが観察され、海洋ゴミを回収しない海域ではアマモの生育範囲や密度が高くなる可能性は低いと推測される。



令和7年度「有川・横浦地区（活動区）、浜地区（対照区）位置図」